

# 春風秋霜 1月号

平成30年1月5日  
島田市教育委員会だより

教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

新年明けましておめでとうございます。変化が激しく、様々な課題への対応が求められる一年になると思いますが、『笑顔・やりがい・仲間』を合言葉に、この一年もよろしくお願いいたします。

## 1 六合中学校区道徳研究会に参加して

11月22日（水）に行われた道徳研究会は、2年間の研究成果が良く表れた素晴らしいものでした。紀要では、道徳研究を核としつつ、カリキュラム・マネジメントや社会に開かれた教育課程にも触れるなど、新しい課題に取り組む時の方向性を示したものだと思いました。

六合小学校の研究授業では、何よりも子供たちの頑張りが目を引きました。6年生の議論する様子や4年生の友達の発言を大切にしている様子、1年生の寸劇などにも、学級経営の成果を見ることができました。道徳研究により、子供たちが育ち、素晴らしい学級づくりがあったからこそ、素晴らしい授業ができたのだと思います。

全体提案では、価値の押し付けにならないようにという話がありました。授業を見ていると、6年生では友情と公正、4年生では公平と協力などといった複数の価値から議論されていました。複数の価値がぶつかり合う時、子供たちは自分の価値を見つめ直します。どちらの価値も素晴らしいという視点で、授業を展開することが議論する道徳には求められると思います。

今回の参加者には、成果と課題を明確にし、各学校で追検証し、これからの道徳授業に生かしてほしいと願っています。

## 2 南相馬馬追いの里健康マラソンに参加して

12月2日（土）3日（日）に、市内小中学生8人を連れ、福島県南相馬市を訪問してきました。2日には、北は北海道、西は滋賀県から13市町村から集まった子供たちによる交流会や、名刺交換会、招待選手によるワークショップなどがあり、楽しいひと時を過ごしました。3日には、マラソン大会と博物館見学を行いました。大会の結果は、上位8位入賞者は1人という結果でしたが、各選手とも素晴らしい走りを見せてくれました。



博物館では、南相馬市の歴史や自然とともに、東日本大地震の説明も受けました。8階建ての建物に相当する最大30mの津波が押し寄せてきたことに、子供たちは驚いていました。南相馬市の復興は着実に進み、被害の痕跡はほとんど見られなくなりました。しかし、市議会議員の話では、所有者が戻らないため、復旧した水田が再び荒れ始めているということでした。また、原子力発電所に近い浪江町には、手付かずで荒れた田畑や家がたくさん見られましたし、除染物の詰まった黒い袋もたくさん見ました。福島県の完全な復興には、様々な課題があり、長い時間がかかると感じました。

## 3 いじめ防止について

11月議会では、いじめの現状と対応について取り上げられました。島田市における、平成28年度にいじめと認知された件数は、178件と平成26年度の2倍以上になっています。文部科学省からの指導もあり、疑わしいトラブル等も積極的にいじめと認知した結果だと思っています。

常葉大学太田先生が継続して行っているアンケート結果を見ると、今年度は、いじめ被害の経験者が40.1%、加害経験者が41.3%と、昨年度（加害・被害とも約50%）と比べ大きく減少しています。各学校においても定期的にアンケート調査をし、指導を継続している結果がこのような減少に繋がったと思います。

重大ないじめ事件を防止するためには、アンケート結果や子供たちの表れに違和感をもった時、その違和感を組織で共有することが大切です。また、太田先生の分析では、「よく声を掛ける」「真剣に話を聞いてくれる」教師には、相談しようとする子供が多く、「挨拶をよくされていると認識している子供は加害者になりにくい」ということが明らかになっています。いじめが起きる前の日常のかかわりや指導が大切になります。

#### 4 ジュニア エコノミー カレッジ表彰式に参加して

12月10日（日）にチャリム21において、ジュニア エコノミー カレッジ表彰式が行われました。小学生3チームと中学生1チームにより、現金を借り、材料を仕入れ、販売し、借入金の返済と、一般企業と同様な活動をした子供たちは、当日、収益金の中から、10,850円の税金を牛尾副市長に渡しました。

夏休みに1泊の合宿を行って準備をしてきましたが、プレゼンに合格できず、涙を流した子供もいたようです。販売当日は、積極的に呼び込みをしたり、移動販売をしたりして、商品を売り切ったそうです。苦労があったからこそ、子供たちの顔に自信がみなぎっていたのだと思います。体験から学んだものは、生涯の宝になると思います。



金谷産業祭で商品进行子供たち

## 肘かけ椅子

秋田 美八子 教育委員

### 「あかちゃんふれあい体験」

毎週、ドラマ「コウノドリ」を録画して見えています。毎回毎回涙なしに見られないのは、自分自身の経験や、これまでに会ったお母さんやあかちゃんに、どこか重ねながら見ているからかもしれません。

先日、初倉中学校で開催された『あかちゃんふれあい体験』には、たくさんのお母さんとあかちゃんが参加してくれました。私のグループでは、1700gで生まれたあかちゃんが保育器の中で頑張っている様子をアルバムにまとめて持ってきてくれたお母さんや、「あかちゃんが生まれてからまったく自分の時間が無くなってしまい大変なんだよ。」と言いながらも、毎日事細かにつけている育児日記を生徒たちに見せてくれたお母さんがいました。

生徒たちからは、様々な質問が出されましたが、中でも「あかちゃんを連れていて、嫌な思いをしたことがありますか？」という質問に、お母さんたちが「嫌な思いをしたことなんかないよ。それどころか、いろんな人が“かわいいね”とか“何ヶ月？”って声をかけてくれるんだよ。」と、口をそろえて答えた時の生徒たちの驚いたような、ほっとしたような顔が印象に残りました。生徒たちにとっては、「あかちゃんを産み、育てること」の現実を、少し感じることでできた体験になったのではないのでしょうか。

子育て支援に関わらせていただくようになって、今年でちょうど10年になります。ここ数年、子育て広場に来ていたお母さんたちと家庭教育学級の講座などで再会する機会が増え、ご縁をとともうれしく感じています。将来、あかちゃんふれあい体験で会った生徒が、あかちゃんを連れて子育て広場に来てくれたらと、心から願い楽しみにしています。